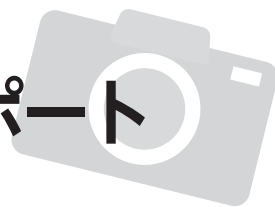


大牟田市に関する、さまざまな出来事を写真とともに紹介します。

まちかどレポート



癒しのブルーが市庁舎を照らす

世界自閉症啓発デーおよび発達障害者週間に合わせ、4月2日から8日、市庁舎がブルーの光でライトアップされました。コロナウイルスの影響で例年の点灯式は中止となりましたが、人形劇を使った点灯式が行われ、その様子を収めた動画が市の公式Facebookなどで配信されました。



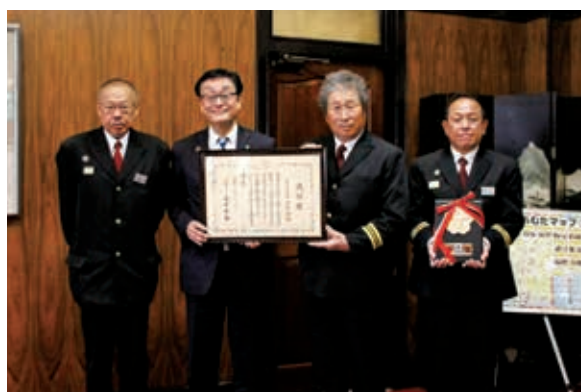
新型コロナ対策に役立ててください

Matsuo Sangyo株式会社の代表取締役社長・渋谷翔一郎さんが4月16日、市役所を訪れて、新型コロナウイルス感染防止対策に役立ててくださいと、多大な寄付を贈呈されました。寄付金は子どもたちや高齢者の皆さんの為に、マスクや消毒液などの購入費に充てさせていただきます。



交通ルールを守って、元気に通学します

新一年生へのランドセルカバー、防犯ブザー、黄色いワッペン の贈呈式が4月3日、市役所で行われました。今春入学した840人の交通安全を願い、各協会や保険会社から贈られました。式には新一年生を代表して山本真也さんと古賀結菜さんが出席しました。



大牟田市消防団に総務大臣感謝状

大牟田市消防団は、「令和元年度総務大臣感謝状」を初受賞しました。全国的にも団員数が減少している中で、団員確保のために積極的な取り組みを行ったこと、その結果前年に比べ団員数が大きく増加したことが評価され、受賞につながりました。

萩尾望都さんへ

市民栄誉賞

数々の功績をたたえて



受賞の喜びを語る萩尾さん

大牟田市出身の漫画家・萩尾望都さんへの市民栄誉賞授与式が3月19日、東京都にある小学館ビルで行われました。数々の受賞歴を持つなど、少女漫画界で確たる地位を築いた功績をたたえるもので、本市における4例目の市民栄誉賞授与者となりました。

幼少の頃から絵を描くことが好きだった萩尾さんは、学生時代に友人の皆さんらと漫画を描き始め、昭和44年に上京デビュー。以後、「ポーの一族」や「トーマの心臓」「11人いる!」など、独自の世界観を持つ作品を発表し続け、数々の賞を受賞されてきました。

授与式で関市長は「多くの名作を手掛け、輝かしい功績を残されている萩尾先生は市民の誇り。これからもますますの活躍を期待しています」と功績をたたえました。

萩尾さんは「なかなか大牟田に帰れなくて申し訳ないと思っています。当時の大牟田は、牧歌的なところがある一方、労働争議などがある両極端なまちでした。数年前に久

しぶりに帰省しましたが、まちの変化に驚きました。住んでいた社宅もなくなり寂しく思いましたが、若い人たちが頑張っていると聞いてうれしく感じました。新しい人たちが頑張つて未来を作ってほしいですね」と話されました。

いまだ現役で、精力的に創作活動している萩尾さん。ますますの活躍を期待します。



もと
萩尾 望都 さん



代表作
「ポーの一族」
©小学館

大牟田市生まれ。三川小学校～船津中学校～大牟田北高出身（一時期大牟田を離れた時期あり）。

少女漫画にSF的な要素を加え、数々のヒット作を世に放った漫画界の巨匠。数々の漫画賞に加え、平成24年に紫綬褒章（少女漫画家で初）、29年には朝日賞を受賞するなど輝かしい功績を残されており、デビュー50周年を迎えた令和元年には、文化功労者にも選出されました。